

## アーバンデザインとは何か

0. 都市計画の英訳は City Planning (英) / Urban Design (米)

## City と Urban の違い、Planning と Design の違い

「計画」の中にアウトプットとしての「デザイン・設計」を含む

1. 史的視点から

都市史 都市は人類の誕生とともにある 文明

都市計画史 「都市計画」はいわば概念であり、形がともなわない場合もある。

近代都市計画史は 1900 年以降と考えてよい

構造用鉄骨、大きな板ガラス、安全なエレベータ、人工照明、空調といった技術の発明

= 建築物 (Building = 高層ビル、工場、オフィス、病院などで進化)

都市設計史 主に形のはなし

都市デザインは 1960 年代後半に「都市計画」の一部門として誕生、

都市の成長と維持に関して視覚的デザインの方向性を与える

「<sup>アーバンデザイン</sup>都市設計」史だけでは語り尽くせない部分も多いので、都市史 / 都市計画史を織り交ぜて概説を行

う

2. アーバンデザイン (Urban Design) の範疇と概念

**アーバンデザイン** 都市全体の話? ディテールまで含む? 住民参加は関係する? 行政の計画?

「都市デザイン / 都市設計」 都市計画は法律で定められた概念規定がある

「まちづくり」

「まちづくり」の英訳は実際難しい。「まち」にも「つくる」にも即物的な概念以上のものが込められている。「まち」は町であると同時に市街でもあり、町内すなわち地域コミュニティでもある。

「つくる」といっても物理的に組み立てるだけでなく、さまざまな組織や人間関係を築きあげることも含まれている。「まちづくり」とひらがな書きするところにもこうした柔軟な感覚が感じられる。まちづくりという表現に象徴されているように日本の都市計画では、とくに近年、物的な計画にとどまらないソフトな活動に対する評価が高まってきている。もちろん、こうした傾向は日本にかぎったことではない。欧米にもまちづくり活動をおこなう住民組織は数多い。そうした組織と日本の組織との交流も始まりつつある。ところが欧米と日本とでは決定的に違う点がひとつだけある。欧米ではさまざまな市民活動が町並みの保全や開発計画の変更など主に物的な成果物へと収斂していくのに対して、日本では関心が活動プロセスや運動論の新展開など活動の継続自体、あるいは活動しているメンバーの人柄や人物像にまで広がっていくという点である。「もの」だけでなく、「ひと」や「ことがら」の動向にも等しく関心を寄せる傾向が日本では非常に強い。またこの傾向は、日本だけでなくアジア一般に見られる。(西村幸夫)

0) 近代都市計画が制度化された計画の機械的な適用という一面を持っていたのに対して<sup>1</sup>、ポストモダンの都市計画に相当するのが「アーバンデザイン」。1960年代後半に都市計画の一部ものとして誕生し、都市の成長と維持に関して視覚的デザイン(3次元的)<sup>2</sup>の方向性を与えてきた。

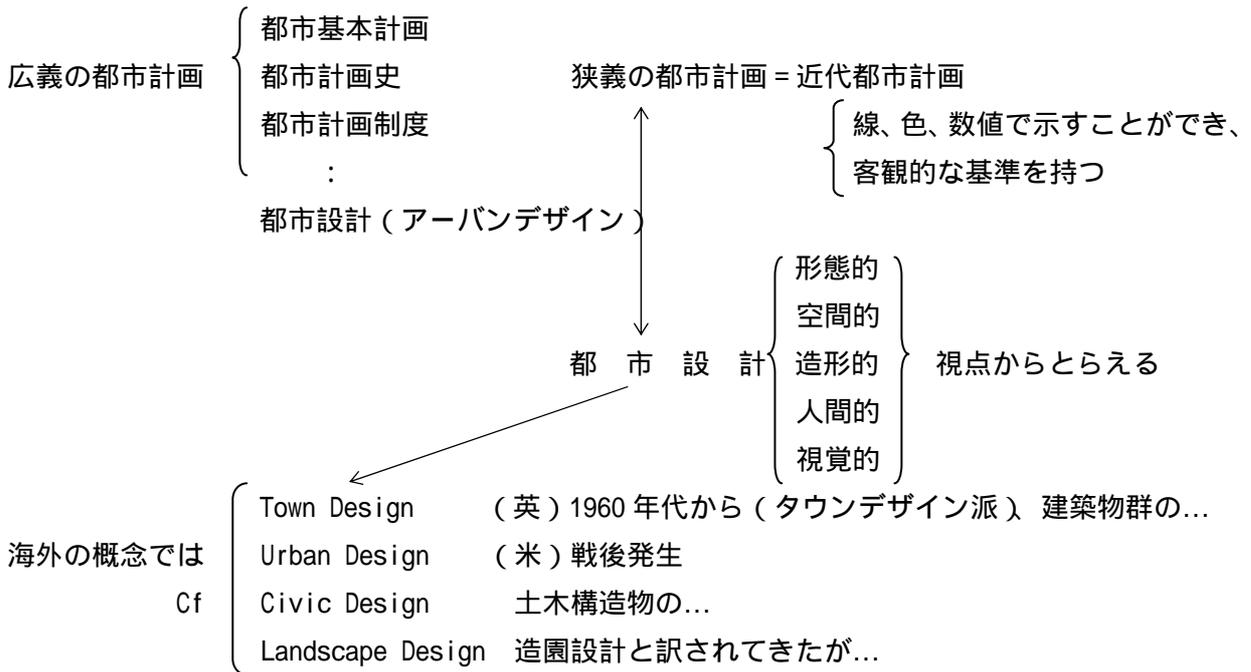
1 線や色で地図を区分けするような空間規定

2 見た目のわかりやすさ、美しさ、心地よさ

1) アーバンデザインの定義

広義の都市計画に含まれる。形態的・空間的なもので必ずしも具体的な設計をしない場合もある

概念



快適で質の高い外部空間を生み出すこと。行政が大きな役割を果たす

金

行政の形態コントロール(法、指導要綱) 個々の設計者の設計行為(建築自由)  
調整が重要な役割となる(届出、許可制)  
住民参加、市民運動

都市全体から個々のストリートファニチュアまで及ぶ設計行為

範囲

- ・都市全体の設計 / 都市の骨格づくり (インフラストラクチャやストラクチャの整備)
- ・都市の部分 = 中心地区 (都心の駅前空間、中心市街地、ダウンタウンなど)  
住宅地 (ニュータウンなど)
- ・都市の構成要素 = 都市施設、街路空間
- ・ディテール = サインやストリートファニチュア
- ・イベントや住民活動による地域の活性化 (行動・活動)

2) アーバンデザインの概念整理 (本講義を通して話す事柄)

目標 (指向) ...都市美の追求、アメニティの実現、人間性に配慮、文化性を高める

都市美...視覚的側面が重要 (都市景観、景観論、景観解析・分析、景観形成 (整備) 計画)

アメニティ (Amenity) ...視覚以外の感覚を含んだ快適性・イメージ

公共空間のイメージの抽出 (イメージ・マップ / K. リンチ)

人間性 (Humanity / Human Scale) ...都市空間を人間的な空間として回復する

(スピード感、密度、スケール)

車社会となって人間 (性) が都市から追い出された

歩行者空間の重視 (設計手法 = 住宅地内、ショッピング・モール、広場...)

文化対策...歴史的景観の保全、文化のための1%予算、教育プログラムの導入、

アイデンティティ (Identity) の確認...

どのように

都市の広がりを理解できるように(「<sup>きわ</sup>際」の明確化、「都市」の領域を区分)  
 都市を人間的スケールに、  
 自然や環境に都市の形態を関連させ(ファジー、フラクタル、 $1/f$  ゆらぎ...)  
 都市の中心を形成し、  
 モニュメンタル・シンボリック・ランドマークを補う、  
 重要な焦点(view point)をつくり、  
 都市をさまざまな活動の拠点とする

実践 地方自治体のアーバンデザイン ←——→ 地方分権、市町村合併の推進

具体的な手法 {

- マスタープラン(都市、都市計画、市町村、住宅、緑、景観...)
- コントロール(法・条例による規制・誘導)
- 事業・制度(法・条例により定められた手法・お金つき)
- ガイドライン(お願い行政、強制力・罰則の有無)
- 住民参加(さまざまな段階で、情報公開・意見の聴取・討論への参加・  
 計画づくり・計画策定・実践への参加)
- 間接民主主義(議員を代表として) / 直接民主主義(自分で手を出す)
- 教育・啓発活動(P R、教育プログラムなど、長期的・継続的な手法)

3. 都市の概念(CityとUrban)

地方自治体(都道府県・市町村)単位でない、都市に対する計画

1) 「都市計画」?

日本では明治期以降に一般的な概念となる。それまで用いていた「市区改正」と同義

(英) Town Planning

urbanism 都市性・都市の様式

(米) City Planning

(独) Stadteban

(仏) urbanisme

1920年代に発生(ル・コルビジェやCIAMによって使われ始める)

2) 「都市」?

「都(みやこ)」: 余剰生産物の貯蔵などを行う「宮処(みやどころ)」に由来

農業生産を中心とする社会の支配階層による政治の中心を意味する

「市(いち)」: 流通交流の結節点。経済活動の中心を意味する

3) CityとUrbanの由来(ラテン語から派生)

civitas(キヴィタス) 都市の実態、中心、物的なもの

cite [仏]、city [英]: 都市の中心、宗教的・政治的集合体としての都市

civil: 権利・精神的・文化的なもの

city [英] 市、都市、都会

英国: 国王の勅許状によりその名称が与えられる。通常Cathedralのある都市

米国: 市長または市議会の行政下にある自治体。Townよりも重要な都市

カナダ: 一定数以上の人口にもとづく最高位の自治体

civic/civil [英] 市民の、都市の

civilization [英] 文明、文明化する

urbs(ウルブス)

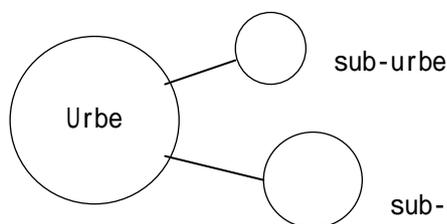
都市の本質に近いもの、変化し形成するもの

urban : 建物の集合体

~ローマ人の土地を囲む、都市壁を作るという行為 はじめは小さくても発展して大きくなる

都市のことを urbe (都市壁の中を intra-muros、都市壁の外を extra-muros と明確に区別した)

スペイン・バルセロナのCerdà(セルダ)が1867年『都市計画の一般理論』でurbanizationを用いた。  
用法は「都市が変化する原則」の意



sub-urbe = 従属して都市(居住地)がある(郊外の発生)

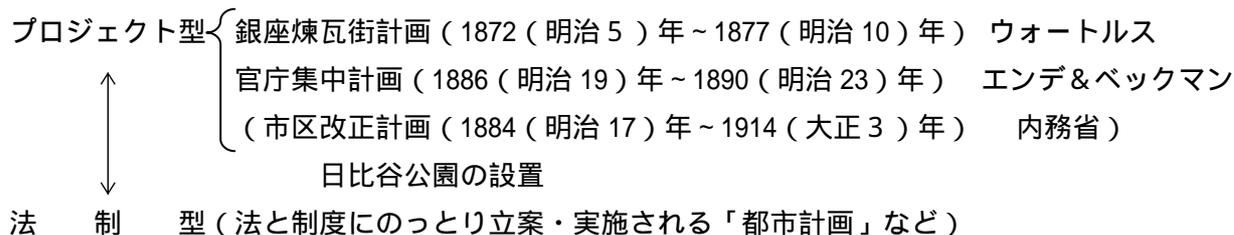
sub-urbe が形成される要因

suburb(郊外)

- 1. 道路整備
- 2. 産業を外に押し出す(皮のなめし(におい)、金属(騒音))
- 3. 行政的(城壁内に入るときに税金を払うなどの行政手続き)
- 4. 郊外住宅地(金持ちの別荘として作られる) = Weekend House (金持ちのセカンドハウス)

#### 4. 日本のアーバンデザインの経緯

##### 1) 官主導のアーバンデザイン



関東大震災 (1923 (大正12)年)      震災復興計画  
 41億円規模計画 (後藤案)  
 政府・大蔵省の抵抗  
 7億円強 (政府原案)  
 議会・住民の反対 (区画整理の無理解)  
4億7千万円弱 (決定・実施)

新設・拡張道路 750 km / 新設公園大規模 3 か所・小規模 52 か所 /  
 焼け跡の 90% にあたる 3119ha を 6 年間で区画整理      江戸 (下町) の街割消える

##### 2) 民間の住宅地開発

郊外住宅の先駆け

大阪	箕面 <sup>みの</sup> 電鉄 (現・阪急)	小林一三	池田室町 (1910 (明治43)年)
東京	東京信託(株)		桜新町 (1913 (大正2)年)
	渡辺治右衛門		渡辺町 (1916 (大正5)年)
	田園都市(株) 渋澤栄一		田園調布 (1923 (大正12)年)
	三菱財閥 岩崎久弥		駒込 <sup>やまと</sup> の大和村 (1920 (大正9)年)
	同潤会 (内務省の外郭団体、1924 (大正13)年設立)		

震災復興とあいまってスラムクリアランス、住宅改良、集合住宅建設

都市への人口集中によるデベロッパーの発達

日本の建築は元来住宅 (個人住宅) のなかに真価があった (大規模な木造)

住宅の画一化 (プレハブ、2 × 4

...木造であるが在来構法でない手法の導入、大量生産、個性の喪失)

群となる (団地) = 地方から 3 大都市圏に集中した若年労働者を住ませるための、

団地開発のため 1955 (昭和30)年に住宅公団発足

住宅・都市整備公団 (住都公団)

都市基盤整備公団 (都市公団)

## 5. 文明の成立との結びつき

## 1) 人口の推移

世界と日本の人口の推移

年	世界	日本	
2050	約 100 億人	約 11,200 万人	
2000	約 63 億人	約 12,800 万人	
1900	16.3 億人	4,439 万人	
1800	9.5 億人	2,990 万人	
1600	5.8 億人	1,227 万人	(関が原合戦)
1000	2.5 億人	650 万人	(平安時代)
400	2.1 億人		(弥生時代)
200		59.5 万人	(縄文後期)
1	2.5 億人		
BC1300	1.0 億人	16.0 万人	(縄文後期)
BC3000	5000 万人	11.0 万人	(縄文前期)

## 2) 都市文明の成立

## 文明発展の転機

狩猟採集生活      食糧生産（農耕牧畜）生活へ      （新石器革命）

移動生活      定住生活      （都市革命）

紀元前 9000 年頃      チグリス・ユーフラテス両川下流域「肥沃な三日月地帯」で始まる

紀元前 5000 年頃      農耕牧畜の生産技術向上（雨水農耕      初歩的な灌漑技術の導入）

農耕村落の規模拡大

定住生活により人間社会のシステム / イデオロギーの原型が成立

支配階級の成立 / 宗教目的の建物の建設

都市神（神 = 王）を祭る神殿を核（中心位置）に都市を形成 + <sup>ジグザット</sup> 聖塔 + 都市壁（円形）

通風・採光に配慮した中庭形式の住宅

常に覇権や領土問題で争うようになる      領土の支配・統合      統一国家の確立

## 3) 支配階級の都市計画

ペリクレス（古代ギリシャ・アテナイ）

カエサル（古代ローマ帝国・ローマ）

ブルネレスキ（ルネサンス期イタリア・フィレンツェ）